

## 平成 29 年度 鹿児島大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

理・工・医・歯・農・水産・共同獣医・教育学部

平成 29 年 2 月 25 日

- 理 [数理・物理・地環]・工・医 [医]・歯学部は, [1], [2] 必答, [3] ~ [5] から 1 問選択, [6], [7] 必答. 数 I・II・III・A・B(120 分)
- 理 [生命化]・農・水産・共同獣医学部は, [1], [2] 必答, [3] ~ [5] から 1 問選択. 数 I・II・A・B(90 分)
- 教育 [数学・理科・技術・教育・心理・家政・国語・社会・英語・特別支援教育・健康教育] 学部は, [1] 必答, [3] ~ [5] から 1 問選択, [2], [8] の 2 題から 1 問選択. 数 I・II・A・B または 数 I・III・A・B(90 分)

**1** 次の各問いに答えよ.

(1) 関数  $f(x) = |x - 1| - 2$  について, 次の各問いに答えよ.

(a)  $y = f(x)$  のグラフを描け.

(b)  $|f(x)| > 1$  となる  $x$  の範囲を求めよ.

(2) 実数  $\alpha$  は  $\sqrt{2} < \alpha$  を満たすとする.  $\sqrt{2} < \frac{\alpha}{2} + \frac{1}{\alpha} < \alpha$  を示せ.

(3) 次の等式を満たす関数  $f(x)$  を求めよ.

$$f(x) = 2x^2 - 3 \int_{-1}^0 xf(t) dt - \int_0^1 f(t) dt$$

**2** 関数  $y = \cos 2\theta - a \sin \theta + 2$  ( $0 \leq \theta < 2\pi$ ) について, 次の各問いに答えよ. ただし,  $a$  は正の定数とする.

(1)  $t = \sin \theta$  とするとき,  $y$  を  $t$  を用いて表せ.

(2)  $y$  の最大値  $M$  と最小値  $m$  を, それぞれ  $a$  を用いて表せ. また, そのときの  $t$  の値も求めよ.

3 次の条件によって定められる数列  $\{a_n\}$ ,  $\{b_n\}$  がある.

$$\begin{aligned} a_1 &= 2, \quad b_1 = 1, \\ a_{n+1} &= 2a_n + 3b_n - 2 \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \\ b_{n+1} &= a_n + 4b_n + 2 \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \end{aligned}$$

次の各問いに答えよ.

- (1)  $c_n = a_n - b_n$  によって定められる数列  $\{c_n\}$  の一般項を求めよ.
- (2)  $d_n = a_n + 3b_n$  によって定められる数列  $\{d_n\}$  の一般項を求めよ.
- (3) 数列  $\{a_n\}$  の一般項を求めよ.

4 一辺の長さが1の立方体  $OABC - DEFG$  において, 線分  $BF$  を  $2:1$  に内分する点を  $P$ , 線分  $EF$  の中点を  $Q$  とする. また, 線分  $OF$  と平面  $PQG$  の交点を  $R$  とする. 次の各問いに答えよ.

- (1) ベクトル  $\overrightarrow{OP}$ ,  $\overrightarrow{OQ}$  を,  $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ ,  $\vec{c} = \overrightarrow{OC}$ ,  $\vec{d} = \overrightarrow{OD}$  を用いて表せ.
- (2)  $\overrightarrow{OR} = s\overrightarrow{OF}$  を満たす実数  $s$  を求めよ.
- (3)  $\triangle PQG$  の重心を  $S$  とするとき, 線分  $RS$  の長さを求めよ.

5 1枚のコイン投げを  $2n$  回行う. この  $2n$  回のコイン投げで, 表が出る合計回数を  $X$  とする. ただし, コインの表と裏の出る確率は等しいとする. 次の各問いに答えよ. ※  $n$  は自然数とする

- (1)  $X$  の期待値と標準偏差をそれぞれ求めよ.
- (2)  $\frac{P(X = k + 1)}{P(X = k)}$  を求めよ. ただし,  $k = 0, 1, 2, \dots, 2n - 1$  とする.
- (3)  $P(X = k)$  を最大にする  $k$  の値を求めよ.
- (4)  $n = 200$  とする, 試行回数が大きいきとき,  $X$  の確率分布は正規分布で近似できることが知られており, 試行回数  $400$  はこのような近似が成り立つのに十分大きいとみなせる. このことを利用して,  $X$  の値が

$$190 \leq X \leq 210$$

となる確率の近似値を求めよ. ただし, 標準正規分布に従う確率変数  $Z$  に対する  $P(Z > 1)$  の近似値としては  $0.159$  を用いよ.

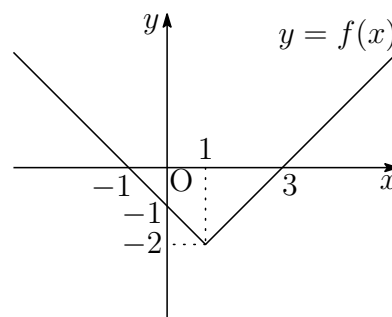
- 6 O を原点とする座標平面において、 $C_1$  を曲線  $\frac{x^2}{3^2} + y^2 = 1$ 、 $C_2$  を直線  $y = 2$  とする。点 P は第 1 象限にある  $C_1$  上のある点とし、点 P における  $C_1$  の接線を  $l$ 、この接線  $l$  と  $C_2$  との交点を Q とおく。次の各問いに答えよ。
- (1) 点 P の座標を  $P(3 \cos \theta, \sin \theta)$  と表すとき、接線  $l$  の方程式、および点 Q の座標を  $\theta$  を用いて求めよ。
  - (2)  $\triangle POQ$  の面積を最小にする点 P の座標、および接線  $l$  の方程式を求めよ。
  - (3) (2) のとき、曲線  $C_1$  で囲まれた図形と  $\triangle POQ$  との共通部分の面積を求めよ。
- 7 O を原点とする複素数平面において、4 点 O, A, B, C が、時計の針の回転と逆の向きに正方形をなすとする。複素数  $z, w$  を表す点  $P(z), Q(w)$  が、点 A, B, C のいずれかに一致しているとき、次の各問いに答えよ。
- (1)  $z, w$  が条件  $0 < \arg\left(\frac{w}{z}\right) \leq \frac{\pi}{2}$  を満たすとする。このとき、点 P, Q は点 A, B, C のいずれに一致しているか、条件を満たす P, Q の組をすべて求めよ。
  - (2)  $z, w$  が (1) の条件に加え、さらに  $w = z^2$  を満たすとする。このとき、(1) で求めた P, Q のそれぞれの組に対して、複素数  $z$  の値を求め、対応する正方形 OABC を複素数平面上に図示せよ。
- 8 曲線  $y = e^{-2x}$  を考える。この曲線上の点  $(t, e^{-2t})$  における接線  $l$  が点  $\left(-\frac{1}{2}, 0\right)$  を通るとき、次の各問いに答えよ。ただし、 $e$  は自然対数の底とする。
- (1)  $t$  の値と接線  $l$  の方程式を求めよ。
  - (2) 曲線  $y = e^{-2x}$  と接線、 $x$  軸、および  $y$  軸で囲まれた図形の面積を求めよ。

## 正解

1 (1) (a)  $f(x) = |x - 1| - 2$  より

$$f(x) = \begin{cases} x - 3 & (x \geq 1) \\ -x - 1 & (x < 1) \end{cases}$$

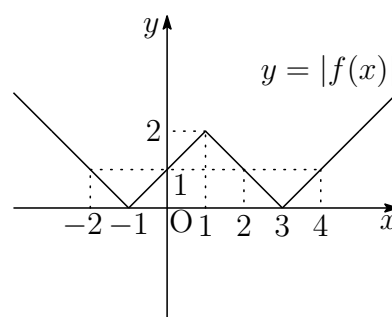
したがって、 $y = f(x)$  のグラフは、  
右の図のようになる。



(b) (a) の結果から、 $y = |f(x)|$  のグラフは、  
右の図のようになる。

よって、 $|f(x)| > 1$  となる  $x$  の範囲は

$$x < -2, 0 < x < 2, 4 < x$$



(2) 実数  $\alpha$  は  $\sqrt{2} < \alpha$  を満たすから

$$\frac{\alpha}{2} + \frac{1}{\alpha} - \sqrt{2} = \frac{1}{2\alpha}(\alpha^2 - 2\sqrt{2}\alpha + 2) = \frac{1}{2\alpha}(\alpha - \sqrt{2})^2 > 0,$$

$$\alpha - \left(\frac{\alpha}{2} + \frac{1}{\alpha}\right) = \frac{1}{2\alpha}(\alpha^2 - 2) = \frac{1}{2\alpha}(\alpha + \sqrt{2})(\alpha - \sqrt{2}) > 0$$

よって  $\sqrt{2} < \frac{\alpha}{2} + \frac{1}{\alpha} < \alpha$

(3)  $A = \int_{-1}^0 f(t) dt$ ,  $B = \int_0^1 f(t) dt$  とおくと、 $f(x) = 2x^2 - 3Ax - B$  より

$$\begin{aligned} A &= \int_{-1}^0 (2t^2 - 3At - B) dt = \left[ \frac{2}{3}t^3 - \frac{3}{2}At^2 - Bt \right]_{-1}^0 \\ &= \frac{2}{3} + \frac{3}{2}A - B, \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} B &= \int_0^1 (2t^2 - 3At - B) dt = \left[ \frac{2}{3}t^3 - \frac{3}{2}At^2 - Bt \right]_0^1 \\ &= \frac{2}{3} - \frac{3}{2}A - B \end{aligned}$$

整理すると  $-\frac{1}{2}A + B = \frac{2}{3}$ ,  $\frac{3}{2}A + 2B = \frac{2}{3}$

ゆえに  $A = -\frac{4}{15}$ ,  $B = \frac{8}{15}$  よって  $f(x) = 2x^2 + \frac{4}{5}x - \frac{8}{15}$

$$\boxed{2} \quad (1) \quad y = \cos 2\theta - a \sin \theta + 2 = (1 - 2 \sin^2 \theta) - a \sin \theta + 2 \\ = -2 \sin^2 \theta - a \sin \theta + 3$$

$$t = \sin \theta \text{ より } \quad \mathbf{y = -2t^2 - at + 3}$$

$$(2) \quad (1) \text{ の結果から } \quad y = -2 \left( t + \frac{a}{4} \right)^2 + \frac{a^2}{8} + 3$$

$0 \leq \theta < 2\pi$  より,  $-1 \leq t \leq 1$  であるから

$$f(t) = -2 \left( t + \frac{a}{4} \right)^2 + \frac{a^2}{8} + 3 \quad (-1 \leq t \leq 1)$$

とおく.  $f(t)$  の最大値は軸の方程式  $x = -\frac{a}{4}$  および  $a > 0$  に注意して

(i)  $-1 \leq -\frac{a}{4} < 0$ , すなわち,  $0 < a \leq 4$  のとき

$$M = f\left(-\frac{a}{4}\right) = \frac{a^2}{8} + 3$$

(ii)  $-\frac{a}{4} < -1$ , すなわち,  $a > 4$  のとき

$$M = f(-1) = a + 1$$

$f(t)$  の最小値は, 定義域の中央  $\frac{-1+1}{2} = 0$  に対して,  $-\frac{a}{4} < 0$  より

$$m = f(1) = -a + 1$$

よって  $0 < a \leq 4$  のとき,  $t = -\frac{a}{4}$  で,  $M = \frac{a^2}{8} + 3$

$a > 4$  のとき,  $t = -1$  で,  $M = a + 1$

$t = 1$  で,  $m = -a + 1$

**補足** 上に凸の2次関数の最小値は, 定義域の中央が放物線の軸より右側にあるときは, 定義域の右端で最小値をとり, 定義域の中央が放物線の軸より左側にあるときは, 定義域の左端で最小値をとる.

$$\boxed{3} \quad (1) \quad \begin{aligned} a_1 &= 2, \quad b_1 = 1, \\ a_{n+1} &= 2a_n + 3b_n - 2 \quad \cdots \textcircled{1} \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \\ b_{n+1} &= a_n + 4b_n + 2 \quad \cdots \textcircled{2} \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \end{aligned}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ から} \quad \begin{aligned} a_{n+1} - b_{n+1} &= (2a_n + 3b_n - 2) - (a_n + 4b_n + 2) \\ &= a_n - b_n - 4 \end{aligned}$$

$$\text{すなわち} \quad c_{n+1} = c_n - 4 \quad \text{また} \quad c_1 = a_1 - b_1 = 2 - 1 = 1$$

したがって、数列  $\{c_n\}$  は、初項が 1、公差が  $-4$  の等差数列である。

$$\text{よって} \quad c_n = 1 + (n-1) \cdot (-4) = -4n + 5$$

$$(2) \quad \textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ から} \quad \begin{aligned} a_{n+1} + 3b_{n+1} &= (2a_n + 3b_n - 2) + 3(a_n + 4b_n + 2) \\ &= 5(a_n + 3b_n) + 4 \end{aligned}$$

$$\text{すなわち} \quad d_{n+1} + 1 = 5(d_n + 1) \quad \text{また} \quad d_1 + 1 = a_1 + 3b_1 + 1 = 2 + 3 \cdot 1 + 1 = 6$$

したがって、数列  $\{d_n + 1\}$  は、初項が 6、公比が 5 の等比数列である。

$$\text{ゆえに} \quad d_n + 1 = 6 \cdot 5^{n-1} \quad \text{よって} \quad d_n = 6 \cdot 5^{n-1} - 1$$

(3) (1), (2) の結果から

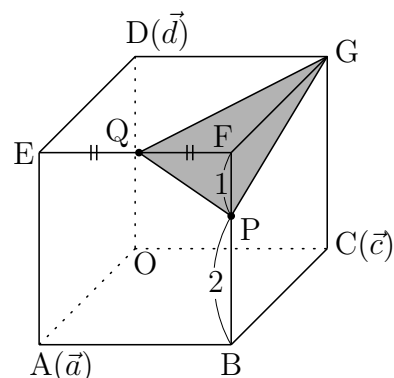
$$a_n - b_n = -4n + 5, \quad a_n + 3b_n = 6 \cdot 5^{n-1} - 1$$

$$\text{上の 2 式から、} b_n \text{ を消去すると} \quad a_n = \frac{3}{2} \cdot 5^{n-1} - 3n + \frac{7}{2}$$

4 (1) 右の図から

$$\vec{OP} = \vec{a} + \vec{c} + \frac{2}{3}\vec{d} \quad \dots \textcircled{1}$$

$$\vec{OQ} = \vec{a} + \frac{1}{2}\vec{c} + \vec{d} \quad \dots \textcircled{2}$$



(2) また  $\vec{OG} = \vec{c} + \vec{d} \quad \dots \textcircled{3}$

$\vec{OP}$ ,  $\vec{OQ}$ ,  $\vec{OG}$  は, 1次独立であるから,  $\vec{OF}$  を実数  $x$ ,  $y$ ,  $z$  を用いて

$$\begin{aligned} \vec{OF} &= x\vec{OP} + y\vec{OQ} + z\vec{OG} \\ &= x\left(\vec{a} + \vec{c} + \frac{2}{3}\vec{d}\right) + y\left(\vec{a} + \frac{1}{2}\vec{c} + \vec{d}\right) + z(\vec{c} + \vec{d}) \\ &= (x+y)\vec{a} + \left(x + \frac{1}{2}y + z\right)\vec{c} + \left(\frac{2}{3}x + y + z\right)\vec{d} \end{aligned}$$

$\vec{OF} = \vec{a} + \vec{c} + \vec{d}$  であるから

$$x + y = 1, \quad x + \frac{1}{2}y + z = 1, \quad \frac{2}{3}x + y + z = 1$$

これを解いて  $x = \frac{3}{5}, y = \frac{2}{5}, z = \frac{1}{5}$

したがって  $\vec{OF} = \frac{3}{5}\vec{OP} + \frac{2}{5}\vec{OQ} + \frac{1}{5}\vec{OG}$

$\vec{OR} = s\vec{OF}$  により  $\vec{OR} = \frac{3s}{5}\vec{OP} + \frac{2s}{5}\vec{OQ} + \frac{s}{5}\vec{OG}$

このとき, R は平面 PQG 上の点であるから

$$\frac{3s}{5} + \frac{2s}{5} + \frac{s}{5} = 1 \quad \text{これを解いて} \quad s = \frac{5}{6}$$

(3) (2) の結果から  $\vec{OR} = \frac{5}{6}\vec{OF} = \frac{5}{6}(\vec{a} + \vec{c} + \vec{d})$

①～③により,  $\triangle PQG$  の重心  $S$  は

$$\begin{aligned}\vec{OS} &= \frac{1}{3}(\vec{OP} + \vec{OQ} + \vec{OG}) \\ &= \frac{1}{3} \left\{ \left( \vec{a} + \vec{c} + \frac{2}{3}\vec{d} \right) + \left( \vec{a} + \frac{1}{2}\vec{c} + \vec{d} \right) + \left( \vec{c} + \vec{d} \right) \right\} \\ &= \frac{2}{3}\vec{a} + \frac{5}{6}\vec{c} + \frac{8}{9}\vec{d}\end{aligned}$$

したがって  $\vec{RS} = \vec{OS} - \vec{OR}$

$$\begin{aligned}&= \left( \frac{2}{3}\vec{a} + \frac{5}{6}\vec{c} + \frac{8}{9}\vec{d} \right) - \frac{5}{6}(\vec{a} + \vec{c} + \vec{d}) \\ &= -\frac{1}{6}\vec{a} + \frac{1}{18}\vec{d} = \frac{1}{18}(-3\vec{a} + \vec{d})\end{aligned}$$

$|\vec{a}| = |\vec{d}| = 1$ ,  $\vec{a} \perp \vec{d}$  より  $\vec{a} \cdot \vec{d} = 0$  であるから

$$|-3\vec{a} + \vec{d}|^2 = 9|\vec{a}|^2 - 6\vec{a} \cdot \vec{d} + |\vec{d}|^2 = 10$$

したがって  $|-3\vec{a} + \vec{d}| = \sqrt{10}$

よって  $RS = |\vec{RS}| = \frac{1}{18}|-3\vec{a} + \vec{d}| = \frac{\sqrt{10}}{18}$



5 (1) コインの表と裏の出る確率はともに  $\frac{1}{2}$

確率変数  $X$  は二項分布  $B\left(2n, \frac{1}{2}\right)$  に従う.

よって, 期待値  $E(X)$  と標準偏差  $\sigma$  は

$$E(X) = 2n \cdot \frac{1}{2} = n, \quad \sigma = \sqrt{2n \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}} = \sqrt{\frac{n}{2}}$$

(2)  $P(X = k) = {}_{2n}C_k \left(\frac{1}{2}\right)^{2n}$ ,  $P(X = k + 1) = {}_{2n}C_{k+1} \left(\frac{1}{2}\right)^{2n}$  より

$$\begin{aligned} \frac{P(X = k + 1)}{P(X = k)} &= \frac{{}_{2n}C_{k+1}}{{}_{2n}C_k} = \frac{(2n)!}{(k+1)!(2n-k-1)!} \cdot \frac{k!(2n-k)!}{(2n)!} \\ &= \frac{2n - k}{k + 1} \end{aligned}$$

(3) (2) の結果から  $\frac{P(X = k + 1)}{P(X = k)} - 1 = \frac{2n - 2k - 1}{k + 1}$

したがって  $0 \leq k \leq n - 1$  のとき  $\frac{P(X = k + 1)}{P(X = k)} > 1$

$n \leq k \leq 2n$  のとき  $\frac{P(X = k + 1)}{P(X = k)} < 1$

よって,  $P(X = k)$  を最大にする  $k$  の値は  $n$

(4)  $n = 200$  のとき, 確率変数  $X$  は二項分布  $B\left(400, \frac{1}{2}\right)$  に従う.

$B\left(400, \frac{1}{2}\right)$  は, 正規分布  $N(200, 100)$  で近似されるから

$$Z = \frac{X - 200}{\sqrt{100}}$$

とおくと, 確率変数  $Z$  は正規分布  $N(0, 1)$  に従う.

$$\begin{aligned} P(190 \leq X \leq 210) &= P\left(-1 \leq \frac{X - 200}{10} \leq 1\right) \\ &= P(-1 \leq Z \leq 1) \\ &= 2P(0 \leq Z \leq 1) \\ &= 2\{0.5 - P(Z > 1)\} \\ &= 2(0.5 - 0.159) = \mathbf{0.682} \end{aligned}$$

- 6 (1)  $C_1: \frac{x^2}{3^2} + y^2 = 1$  上の点  $P(3 \cos \theta, \sin \theta)$  における接線  $\ell$  の方程式は

$$\frac{(3 \cos \theta)x}{3^2} + (\sin \theta)y = 1$$

すなわち  $\frac{x \cos \theta}{3} + y \sin \theta = 1$

上式に  $y = 2$  を代入すると

$$\frac{x \cos \theta}{3} + 2 \sin \theta = 1 \quad \text{ゆえに} \quad x = \frac{3(1 - 2 \sin \theta)}{\cos \theta}$$

よって、点  $Q$  の座標は  $\left( \frac{3(1 - 2 \sin \theta)}{\cos \theta}, 2 \right)$

- (2) 3点  $O, P(3 \cos \theta, \sin \theta), Q\left(\frac{3(1 - 2 \sin \theta)}{\cos \theta}, 2\right)$  を頂点とする三角形の面積を  $f(\theta)$  とすると  $\left(0 < \theta < \frac{\pi}{2}\right)$

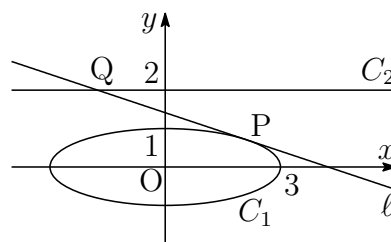
$$\begin{aligned} f(\theta) &= \frac{1}{2} \left| 3 \cos \theta \cdot 2 - \sin \theta \cdot \frac{3(1 - 2 \sin \theta)}{\cos \theta} \right| \\ &= \frac{3}{2 \cos \theta} (2 - \sin \theta) = \frac{3}{2} \left( \frac{2}{\cos \theta} - \tan \theta \right) \end{aligned}$$

したがって  $f'(\theta) = \frac{3}{2} \left( \frac{2 \sin \theta}{\cos^2 \theta} - \frac{1}{\cos^2 \theta} \right) = \frac{3(2 \sin \theta - 1)}{2 \cos^2 \theta}$

$\theta$	(0)	...	$\frac{\pi}{6}$	...	$\left(\frac{\pi}{2}\right)$
$f'(\theta)$		-	0	+	
$f(\theta)$		$\searrow$	極小	$\nearrow$	

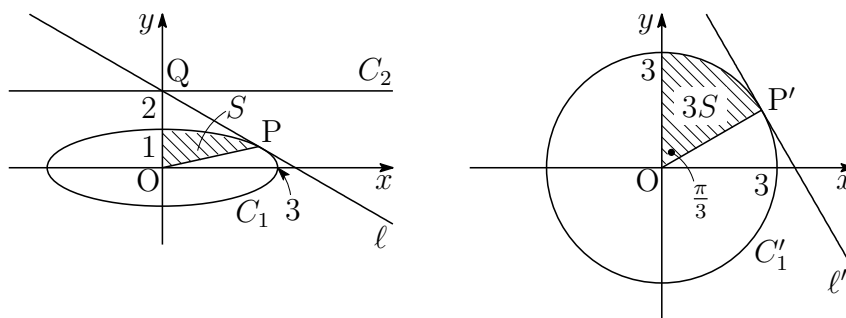
$\theta = \frac{\pi}{6}$  のとき、 $f(\theta)$  は最小となるから、このとき  $P\left(\frac{3\sqrt{3}}{2}, \frac{1}{2}\right)$

また、 $\ell$  は (1) の結果から  $\frac{x}{2\sqrt{3}} + \frac{y}{2} = 1$



(3)  $\theta = \frac{\pi}{6}$  のとき,  $P\left(3 \cos \frac{\pi}{6}, \sin \frac{\pi}{6}\right)$ ,  $Q(0, 2)$ .

求める面積を  $S$  とし,  $C_1$  および  $OP$  を  $x$  軸を元に  $y$  軸方向に 3 倍に拡大したものをそれぞれ  $C'_1$ ,  $OP'$  とすると,  $P'\left(3 \cos \frac{\pi}{6}, 3 \sin \frac{\pi}{6}\right)$ .



$OP'$  と  $y$  軸の正の向きをなす角は  $\frac{\pi}{3}$  であるから

$$3S = \frac{1}{2} \cdot 3^2 \cdot \frac{\pi}{3} \quad \text{よって} \quad S = \frac{\pi}{2}$$

**7** (1) 複素数平面上の 3 点  $A$ ,  $B$ ,  $C$  の座標をそれぞれ  $\alpha$ ,  $\beta$ ,  $\gamma$  とすると

$$|\alpha| = \frac{|\beta|}{\sqrt{2}} = |\gamma|, \quad \arg\left(\frac{\beta}{\alpha}\right) = \arg\left(\frac{\gamma}{\beta}\right) = \frac{\pi}{4} \quad \cdots (*)$$

上の第 2 式および  $\arg\left(\frac{\gamma}{\alpha}\right) = \frac{\pi}{2}$  より,  $0 < \arg\left(\frac{w}{z}\right) \leq \frac{\pi}{2}$  を満たす点  $P(z)$ ,  $Q(w)$  の組は, 次の 3 組.

$$(P, Q) = (A, B), (B, C), (A, C)$$

(2) (i)  $z = \alpha$ ,  $w = \beta$  のとき,  $\beta = \alpha^2$  より,  $\alpha = \frac{\beta}{\alpha}$  であるから

$$|\alpha| = \frac{|\beta|}{|\alpha|} = \sqrt{2}, \quad \arg \alpha = \arg\left(\frac{\beta}{\alpha}\right) = \frac{\pi}{4}$$

$$(*) \text{ により } |\beta| = 2, \quad \arg \beta = \frac{\pi}{2}, \quad |\gamma| = \sqrt{2}, \quad \arg \gamma = \frac{3}{4}\pi$$

(ii)  $z = \beta$ ,  $w = \gamma$  のとき,  $\gamma = \beta^2$  より,  $\beta = \frac{\gamma}{\beta}$  であるから

$$|\beta| = \frac{|\gamma|}{|\beta|} = \frac{1}{\sqrt{2}}, \quad \arg \beta = \arg\left(\frac{\gamma}{\beta}\right) = \frac{\pi}{4}$$

$$(*) \text{ により } |\alpha| = \frac{1}{2}, \quad \arg \alpha = 0, \quad |\gamma| = \frac{1}{2}, \quad \arg \gamma = \frac{\pi}{2}$$

(iii)  $z = \alpha$ ,  $w = \gamma$  のとき,  $\gamma = \alpha^2$  より,  $\alpha = \frac{\gamma}{\alpha}$  であるから

$$|\alpha| = \frac{|\gamma|}{|\alpha|} = 1, \quad \arg \alpha = \arg \left( \frac{\gamma}{\alpha} \right) = \frac{\pi}{2}$$

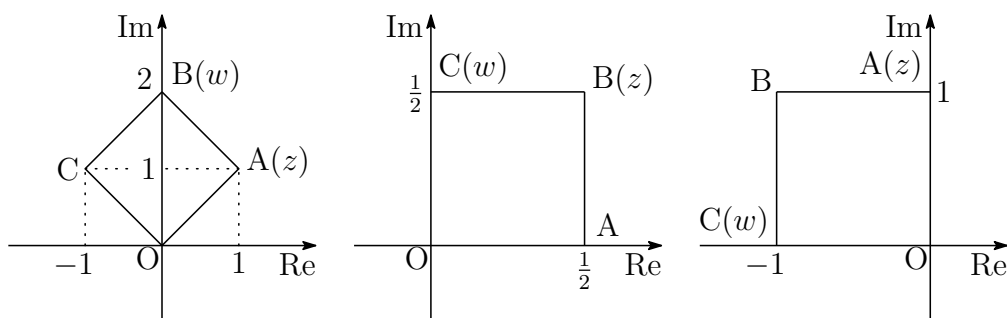
(\*) により  $|\beta| = \sqrt{2}$ ,  $\arg \beta = \frac{3}{4}\pi$ ,  $|\gamma| = 1$ ,  $\arg \gamma = \pi$

(i)~(iii) の結果から

$z = 1 + i$  のとき  $A(1 + i)$ ,  $B(2i)$ ,  $C(-1 + i)$

$z = \frac{1+i}{2}$  のとき  $A\left(\frac{1}{2}\right)$ ,  $B\left(\frac{1+i}{2}\right)$ ,  $C\left(\frac{i}{2}\right)$

$z = i$  のとき  $A(i)$ ,  $B(-1 + i)$ ,  $C(-1)$



**8** (1)  $y = e^{-2x}$  を微分すると  $y = -2e^{-2x}$

曲線  $y = e^{-2x}$  上の点  $(t, e^{-2t})$  における接線  $\ell$  の方程式は

$$y - e^{-2t} = -2e^{-2t}(x - t) \quad \text{すなわち} \quad y = e^{-2t}(-2x + 2t + 1) \quad \dots \textcircled{1}$$

$\ell$  は, 点  $\left(-\frac{1}{2}, 0\right)$  を通るから

$$0 = e^{-2t}(2t + 2) \quad \text{これを解いて} \quad t = -1$$

求める  $\ell$  の方程式は, これを  $\textcircled{1}$  に代入して  $y = -e^2(2x + 1)$

(2) 求める面積を  $S$  とすると, 右の図から

$$\begin{aligned} S &= \int_{-1}^0 e^{-2x} dx - \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} \cdot e^2 \\ &= \left[ -\frac{1}{2} e^{-2x} \right]_{-1}^0 - \frac{1}{4} e^2 \\ &= \frac{1}{4} e^2 - \frac{1}{2} \end{aligned}$$

